

(1) 活動(実践)内容

☆小学校

○5年生 単元名 Hi! Friends 1 Lesson5 What do you like? 4 / 5

○学級の実態と工夫した点

第5学年の4月から始まった週1回の外国語活動では、クラスの大半の児童が楽しく学んでいる。外国語に楽しさを感じているものの、自分の思いや気持ちを友達に伝えたり、聞いたりするなどの関わり合いを苦手と感じている児童がいることが分かった。外国語を使って交流することを苦手と感じている児童からは、「仲の良い子には話し掛けることができるが、そうでない子にはなかなか話し掛けることができない。」「恥ずかしくて積極的に声を掛けられない。」という理由が挙げられ、コミュニケーション活動に自信を持ってない児童がいることが分かった。1学期の外国語活動における交流の場を見ても、普段から一緒にいる友達同士や、男子、女子同士で交流することが多かった。また、外国語活動に限らず、他教科でも自分の気持ちを伝えることを苦手に行っている児童が多い。そのため、交流の場で、意図的に人数を指定したり、必ず男女の交流をしたりするなどの指示を行うようにした。

また、本時の活動では、相手の目を見て、自然とコミュニケーションが生まれる場を設定したいと考えた。そこで、友達の好きなものを尋ねる活動では、友達に好きなものを聞いた後、すぐにワークシートに記入するのではなく、男女1人ずつ聞き終わった後に自分の席に戻り、2人分の好きなものを記入させることにした。こうすることで、友達と会話をする時に、ワークシートに目がいってしまい、なかなか顔を見ながらの会話ができないという問題点が解決できた。さらに、2人分の好きなものを覚えておかななくてはいけないので、しっかり聞こうとする気持ちも高まった。

児童は、英語の読み書きにも興味を示している。現段階では、「聞くこと」「話すこと」に重点を置いて指導をしているが、教室の掲示や絵カードの中に英語を入れて、子供たちが自然と文字に触れられる場を作った。



男女の交流が自然とできた場面

フラッシュカードに文字を入れる

相手の目を見て交流できた場面

(1) 導入

- ・楽しい雰囲気始めることができるように、周りの友達や教師とあいさつをしてから始める。
- ・今日の日付や曜日、天気などを毎回確認して始める

(2) 活動

- ・前時まで習った「I like ~.」「What ~ do you like?」の言い方にフラッシュカードを使ったゲームで慣れ親しんだ。
- ・自分の好きなものを尋ねたり、答えたりするインタビュー活動を行った。
- ・インタビュー活動終了後、「Who am I?」私は誰でしょうゲームを行い、クイズ形式で子どもたちは、問題に答えた。

(2) 成果・課題

○インタビューをする際に、ワークシートを持たずに行うようにした。自分の好きなものを、相手の目を見て、尋ねたり答えたりすることができた。

○インタビュー活動で2人尋ねてから、自分の席に戻り、友達の好きなものをワークシートに記入した。覚えておかななくてはいけないので、一生懸命聞こうという姿が多く見られた。

○子ども達は、文字にとっても興味を示していたため、フラッシュカードや掲示物に文字を入れた。子ども達の中には、それをヒントに発音しようとしていたため良かったと考える。

△2人尋ねてから席に戻るやり方は、良いという面もあったが、覚えようとすることに一生懸命で、コミュニケーションが、成立しにくかった。

△反応の言葉にあまり慣れ親しんでいないため、質問して答えてで終わってしまった。今後は自然と反応できるようにしていきたい。

△教師の指示が、日本語が多かった。クラスルームイングリッシュを中心に覚えていきたい。

(3) 板書

